

南阿蘇鉄道 熊本地震から7年越しの全線再開 7月15日に決定!!

南阿蘇鉄道直通運転協定調印式



熊本地震からの創造的復興施策のひとつとして、ＪＲ豊肥本線肥後大津駅への接続強化について南阿蘇鉄道再生協議会で協議を重ねました。令和２年１０月第１１回再生協議会にて、接続強化に関する方針についての合意が得られ、同年１２月には、再生協議会からＪＲ九州へ要望書が提出され、令和３年度から南阿蘇鉄道及びＪＲ九州にて乗り入れの設計・工事が進められています。そして、今年１月３１日にＪＲ九州本社で、直通運転協定調印式が執り行われ、乗り入れ実施が鉄道事業者間において、正式に合意されました。九州旅客鉄道株式会社代表取締役社長執行役員の古宮洋二氏は「これを機会に南阿蘇地区のさらなる成長を私共と一緒に広げていきたい。７月までに準備を万端にして開通の日を迎えたいと思う。」と述べられました。

南阿蘇鉄道再生協議会

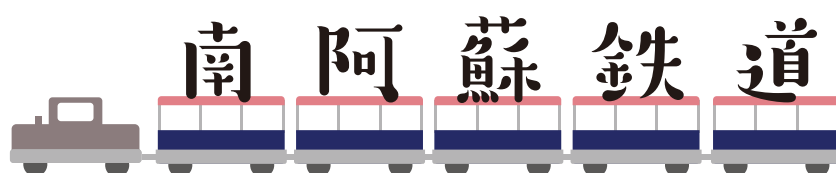
２月３日、ホテル熊本テルサで南阿蘇鉄道再生協議会が開催されました。この協議会では、第一白川橋梁をはじめとする災害復旧工事の進捗報告と、ＪＲ豊肥本線への乗り入れに関する進捗報告、そして７月１５日の全線再開に関する報告が行われました。草村町長は「復旧と同時に乗り入れを実現できることに感謝したい。創造的な復興の形が、全線復旧と乗り入れであり、同時に究極の利便性の向上を目指していきたい。やる気に満ちている方が多いので、観光客の方々も楽しみにしていただけると嬉しい。」、南阿蘇村の吉良村長も「南阿蘇鉄道は、南郷谷の一つの風景になっている。地震前と同じように鉄道が走る姿を住民の方に見ていただければ、安心を与え大きな勇気を持てるようになるのではないかな。」と述べられました。高森駅についても現在、工事が行われています。新駅舎は今年の３月に完成予定となっています。



レールの継ぎ目ボルトを締め付ける様子

南阿蘇鉄道災害復旧工事レール締結式

２月９日に、南阿蘇鉄道災害復旧工事レール締結式が行われました。７年ぶりに鉄路が１本につながり、長らく運休していた南阿蘇村の中松―立野間のレール敷設が完了しました。締結式では、南阿蘇鉄道の安全を祈願して清めの儀も行われ、テープカット後には点検車両が１本に繋がった橋を通過しました。南阿蘇鉄道株式会社の津留専務は、「今後、検査や試運転、乗務員の教育を重ね安全で完璧な復活を遂げたい」と述べられました。



◎主な業務

私は、列車の運転士、車掌、駅長の業務に日替わりで従事しております。最近新たに従事することになりました駅長業務では、運賃の計算や、異常事態が起こった時の対応なども行いますので、より高度な鉄道に関する専門知識が求められます。肩肘張らずに、しかし気を抜かず、業務に邁進していければと思います。

◎おすすめポイント

私は、中松駅と白水高原駅との間にある、寺坂水源の上を渡る橋梁をお薦めします（芝原川橋梁と言います）。寺坂水源はとても綺麗な水源地で、その湧き出る水はとても澄んでおり、体にも、心にも潤いを与えてくれます。今年７月１５日の全線運転再開時には、私どもの素晴らしいデザインの列車が南阿蘇の美しい風景にさらなる彩りを与えますから、寺坂水源の清涼さと併せて、写真映えする風情のある光景が見られるものと確信しています。



地域おこし協力隊
きくち しゅうすけ
菊地 修亮さん

◎豆知識

列車の信号機には、出発信号機や場内信号機などいろいろな種類があります。南阿蘇鉄道にももちろんありますが、熊本地震が起こってからずっと、信号を使わずに列車を運行しておりましたが、再び信号を使っでの運行が再開されます。夜中は真っ暗であった鉄路に、信号が常時灯ることになります！

◎イベント

今月の３月１８日から、再びトロッコ列車が走り出します。４月９日まで毎日運行です。７月１５日以降は、立野まで行くことができるようになります。観光客の方々はもちろんですが、私はそれよりもまず、地元のみなさま方にご乗車いただきたいと考えています。見慣れた景色かと思いますが、車窓からはまた違った見え方をするものと思います。熊本地震から７年経ち、色々なことがありましたが、それらを思い起こしながらの小旅行はいかがでしょうか。

